

給油装置一覧表



作成、2008.05.02

カタログNo 0805

No	給油器 タイプ	ノズル タイプ	ポンプ タイプ	タンク 仕様	給油 始停	対象物 代表	仕組み		メリット	デメリット
	型式									
1	自重落下 BM		ブラシ	—	タンク一体	手動	チェーン/レール	油タンクを上へ配置し、自重で油を垂らす方式	①安価である。	①微調整が難しく給油量が多くなる。 ②ブラシが直接触れるので磨耗しやすい。
2	自重落下 BA		ブラシ	—	タンク一体	自動	チェーン/レール			
3	エア噴霧 TM		噴霧	—	タンク一体	手動	ベアリング	エアで油を送り霧状にして吹付ける方式	①高粘度油でも給油できる。 ②比較的成本安い。 ③奥まで油が入る:短時間で全体に給油がいきわたります。	①空気中にオイルを散乱しやすい。 :給油装置部にカバーを取り付けることで散乱を比較的抑えることが可能です
4	エア噴霧 TA		噴霧	—	タンク一体	自動	ベアリング			
5	エア噴霧 PT M		噴霧	—	圧送タンク	手動	ベアリング			
6	エア噴霧 PT A		噴霧	—	圧送タンク	自動	ベアリング			
7	戻り定量弁 B GP		ブラシ	ギヤポンプ	地上置き	自動	チェーン/レール	定量弁へ油を送り、送り圧を切った時点で油が注油される方式。	①1台のポンプで多数の箇所へも、給油できる。 ②ノズル交換のみで、給油状態を変更可能。 ③エア噴霧に比較して空気中にオイルを散乱させにくい。	①ポンプが遠いと注油タイミングが取りにくい。
8	戻り定量弁 B AP		ブラシ	エアポンプ	地上置き	自動	チェーン/レール			
9	戻り定量弁 S GP		ショット	ギヤポンプ	地上置き	自動	ベアリング			
10	戻り定量弁 S AP		ショット	エアポンプ	地上置き	自動	ベアリング			
11	戻り定量弁 P GP		パイプ	ギヤポンプ	地上置き	自動	チェーン			
12	戻り定量弁 P AP		パイプ	エアポンプ	地上置き	自動	チェーン			
13	直動定量弁 S GP	ショット	ギヤポンプ	地上置き	自動	ベアリング	高圧油を定量弁へ入れ込んだ瞬間に油を吐出する方式。	ピンポイント給油が可能	①高頻度でピンポイント、ジャストタイミングで微量給油が行える。	①ノズルのそばにSOL弁、ACタンク戻りホースが必要 ②タイミング検出器と制御が必要
14	直動定量弁 P GP	パイプ	ギヤポンプ	地上置き	自動	チェーン				

給油箇所

- ①ベアリングのボール部
- ②動作する、ピン、リンク、ローラー、プッシュの摺動部
- ③摺りあうプレート部、ドッグ部
- ④レール軌道面

起動時自動給油



チェーンへの噴霧給油



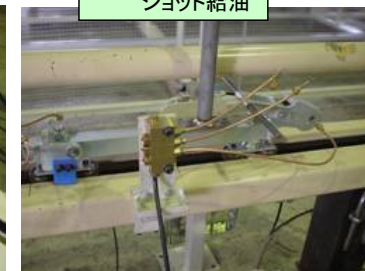
キャリアへのショット給油



キャリアへの
ブラシ給油



キャリアへの
ショット給油



B M B A B AP B GP

S AP S GP

注意
点

A:ポンプからノズルまでは、鋼管または硬質ビニールホースを使用する。
 B:エアピストンポンプは送り量が決まっているため、ノズル量と距離に制限あり。
 C:抵抗オリフイスをつけると給油量を微量にできる。
 D:コンベアチェーンは Coスピード 8m/min以上は、連続給油が 望ましいです。
 噴霧式(TM、TA、PT M、PT A)、ブラシ式(BM、BA、B AP、B GP、)
 E:タンクからの距離については、
 エアポンプ: ≒5m
 ギヤポンプ: ≒30m
 圧送タンク: ≒30m
 を 目安としてください。